

## 五所明神ごしよのみやうじん

〔北嵯峨大沢池さがおほざはいけの西にあり、祭神は神明しんめい、八幡はちまん、加茂かも、春日かすが、住吉すみよしの五社なり〕

## 菖蒲谷しやうぶだに

〔同所大覚寺だいかくじの北にあり、此所に大池あり、水つねに滔々と涌出して溢満せり〕

## 堀抜川ほりぬきがは

〔水源は菖蒲谷しやふぶだにの池水ながれ出る、是則角倉了以すみのくられういの作れる所なり。早魃の年は此山下の郷中田畑の用水に勞

しむ、了以れうい思慮をめぐらし、砒夫畦丁をもつて菖蒲谷しやうぶだにの山中を斫抜せて、左右に石垣を積、其うへに棧をわたして池水を通ずる事数十町に及ぶ。北嵯峨さがおをはじめそれより下流の田畑永く扶となる、今百余歳を経れども破壊せず、流水滔くと通じ早霖に増減なし、了以れういは地理を曉す豪傑こ、にいられたり。大井河おほるがは通船の功は嵐山あらしやまたいひかく大悲閣の碑銘に見へたり、次下に書す〕

## 祥鳳山直指庵しやうほうざんちきしあん

〔北嵯峨細谷さがおほそたににあり。禪宗にして黄檗派しやくかぶつなり、本尊釈迦いんげんぜんじ師し、隠元いんげんぜんじ禪師の嗣法独笑の草創なり〕

## 療病院れうびやうあん

〔嵯峨釈迦堂境内の北側にあり、浄土宗西山派なり。本尊は薬師やくしぶつ仏、弘法大師こうぼうの作にて、坐像七寸許。むか

し弘仁九年の春、天下一同に疫病流行す。嵯峨上皇さかじやうくわうしんきん宸襟を悩し給ひ、弘法大師に詔ありて疫病除滅の祈祷をなさしむ、

即七昼夜を限て一刀三礼して此本尊を彫刻す、又帝は紺紙金泥の心経を書写し給ひ、弘法に命じて同秘健を作らし、禁裏に於て開眼祈誓し給ふ。こゝに至て天下の疫忽ち平癒して太平を諷ふ」

### 三帝御塔

〔小倉山二尊院仏殿の西北にあり、北の方、嵯峨天皇、中央、土御門院、南の方、後奈良院〕

### 円光大師廟塔

〔同所西の山下にあり。碑銘を建る、文字分明ならず、一説に宗景濂が撰ずる所なりといふ〕

### 鼎淑孺人墓碑

〔同所にあり、文筆共に伊藤東涯の撰ずる所なり〕

### 落柿舎

〔小倉山下緋の社のうしろ山本町にあり、俳士落柿舎去来の旧蹟なり。此人姓は向井、名は元淵、長崎聖堂

の祭主向井元升の二男にして、若かりし時より花洛に住し、芭蕉翁の風流を学び、蕉門英雄の一人なり、宝永元年九月に歿す〕

### 落柿舎記曰

嵯峨にひとつのふる家侍る。そのほとりに柿の木四十本あり。五とせ六とせ経ぬれど、このみも持来ら

ず代かゆるわざもきかねば、もし雨風に落されなば、王祥が志にもはちよ、若鳶鳥にとられなば、天の帝のめぐみ

にももれなむと、屋敷もる人を常はいどみの、しりけり。ことし葉月の末、かしこにいたりぬ。折ふしみやこより商人の来り、立木にかい求めむと、一貫文さし出し悦びかへりぬ。予は猶そこにとまりけるに、ころくくと屋根はしる音、ひしくと庭につぶる、声、よすがら落もやまず、明れば商人の見舞来たり、梢つくぐと打詠め、我むかふ髪の頃より白髪生るまで、此事を業とし侍れど、かくばかり落ぬる柿を見ず、きのふの価かへしくれてむやと詫。いと便なければゆるしやりぬ。此者のかへりに友どちの許へ消息送るとて、みづから落柿舎らくししやの去来と書はじめけり。

柿ぬしや木ずゑはちかきあらし山

去

来

〔近年去来の支族しぞく俳士はいし井上いのうえ重厚ちゆうこう、旧蹟きうせきに落柿舎らくししやを修補し、其傍に此句を石に鐫こゝに建てすまひし侍る〕

落柿舎らくししやにて

五月雨や色紙まくれし壁のあと

はせを